

学術団体名：一般社団法人 日本細胞生物学会
学術刊行物の名称：Cell Structure and Function
事業期間：平成29（2017）年度～令和3（2021）年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

ノーベル賞受賞者である大隅良典博士が所属する日本細胞生物学会の学会誌Cell Structure and Function誌を細胞生物学分野のリーディングジャーナルに育成することを目的とする。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- (1) CSFへのアクセス数・論文投稿数を12万件・5万件（平成26年度）から18万件・8万件（令和元年度）、24万件・10万件（令和3年度）に増やす。
- (2) 論文投稿数を18件（平成27年度）から30件（令和元年度）、80件（令和3年度）に増やす。
- (3) IF値を1.900（平成28年度）から3.5以上（令和元年度）、4.0以上（令和3年度）に増やす。
- (4) 論文投稿から公開までの期間を約91日（平成27年度）から60日まで短縮する。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

- (1) 令和元年度のアクセス数は9月までの段階で100,121件（年間換算133,495件）、また論文PDFのダウンロード件数は40,202件（年間換算53,603件）であり、目標の18万件及び8万件には届かないが、順調に増加している。
- (2) 平成29年度の論文投稿数は26件、平成30年度の投稿数は41件、平成31年度の論文投稿数は9月までの段階で31件（年間換算41.3件）であり、2年目にして目標の30件を超えることができた。
- (3) 平成30年度のIF値は2.391、令和元年度のIF値は3.500となり、3年目にして目標を達成することができた。この値はCSFのこれまでのIF値の中で最も高いIF値であり、日本生化学会の学会誌であるJBのIF値2.230、日本分子生物学会の学会誌であるGCのIF値1.922と比較して十分に高い数値である。米国生化学分子生物学会の学会誌であるJournal of Biological ChemistryのIF値4.106に迫る値である。
- (4) 論文投稿から公開までの期間は、令和元年度は平均60.4日となり、目標をほぼ達成した。

・今後の計画

- (1) 論文投稿数を80件に増やす。
- (2) IF値を4以上を目指す。
- (3) 商業誌ではなく、「科学者のための科学雑誌」を追究する。
- (4) 上記の目標のために、海外の学会での広報活動を行い、CSFのホームページを常に改善するとともに、優れた論文の投稿を促進する。

図1 CSFの論文投稿数の推移

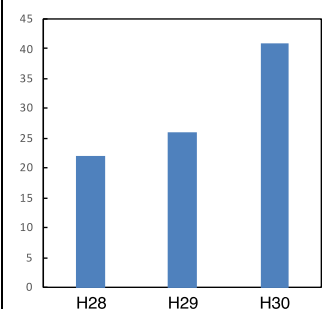


図2 CSFのIF値の推移

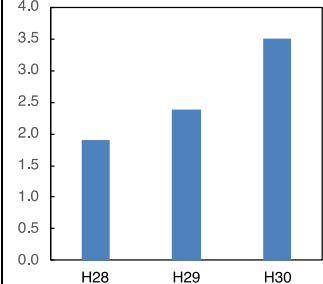


表1 IF値の比較

IF値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
CSF	1.900	2.391	3.500
JB	2.082	2.350	2.230
GC	1.993	2.048	1.922
JBC	4.125	4.010	4.106
JCS	4.431	4.401	4.517
Scientific Reports	4.259	4.122	4.011
PLoS ONE	2.806	2.766	2.776
BMC	2.466	2.559	2.705
FEBS Letters	3.623	2.999	2.675